

2. 就労やワーク・ライフ・バランスについて

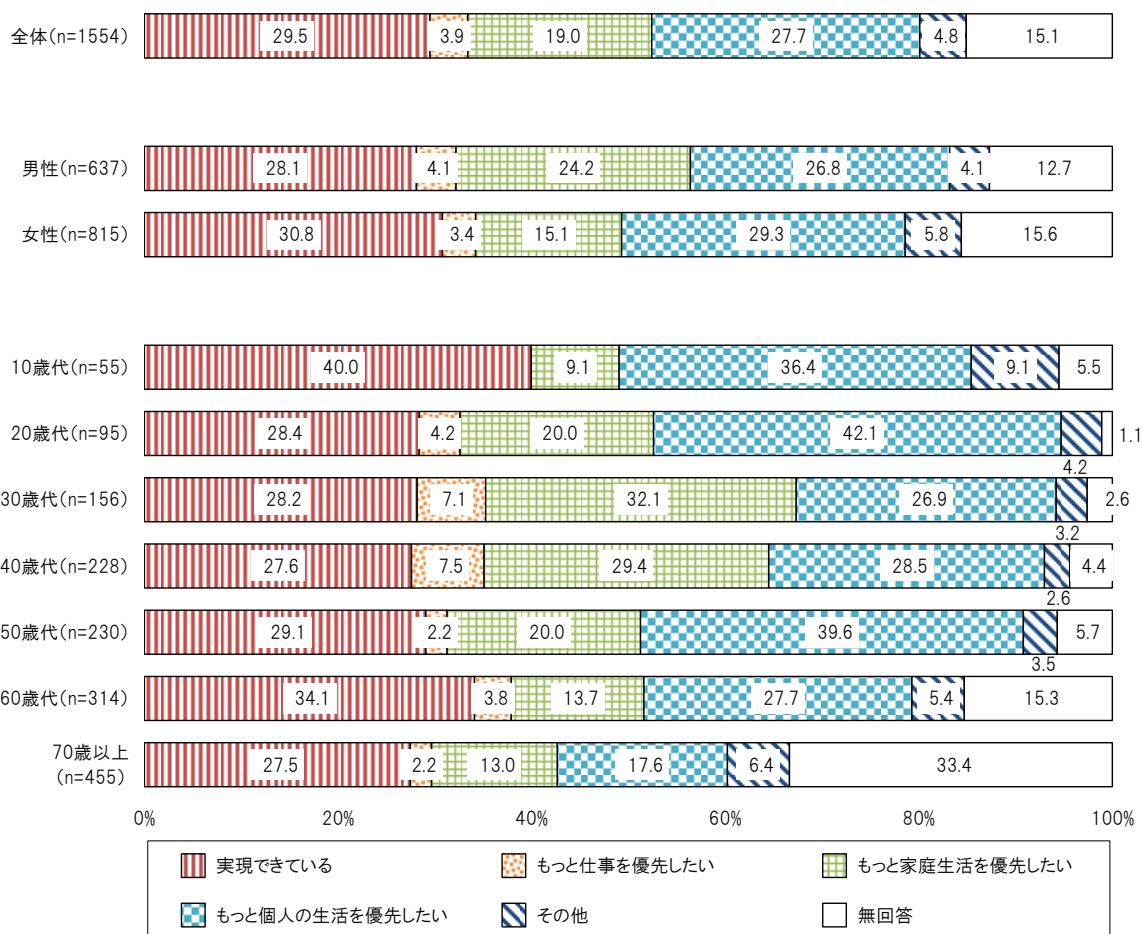
問 42 「仕事」と「生活」の調和を図るワーク・ライフ・バランスという考え方があります。あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。(○は1つだけ)

「実現できている」が29.5%で最も高く、ついで「もっと個人の生活を優先したい」が27.7%、「もっと家庭生活を優先したい」が19.0%となっている。

性別にみると、「もっと家庭生活を優先したい」の割合は、男性が24.2%であるのに対し女性は15.1%であり、男性の方が9.1ポイント高くなっている。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目は、10歳代、60歳以上は「実現できている」、20歳代、50歳代は「もっと個人の生活を優先したい」、30歳代、40歳代は「もっと家庭生活を優先したい」であった。

問42 仕事と生活のバランスは実現できているか



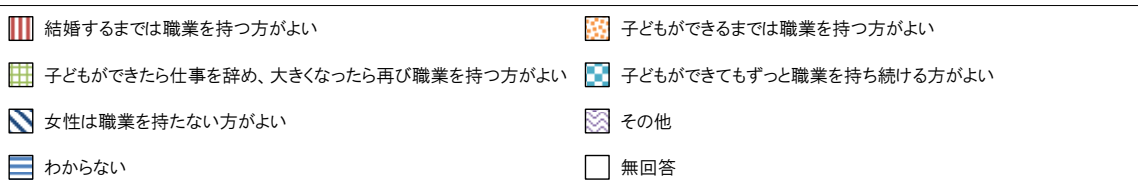
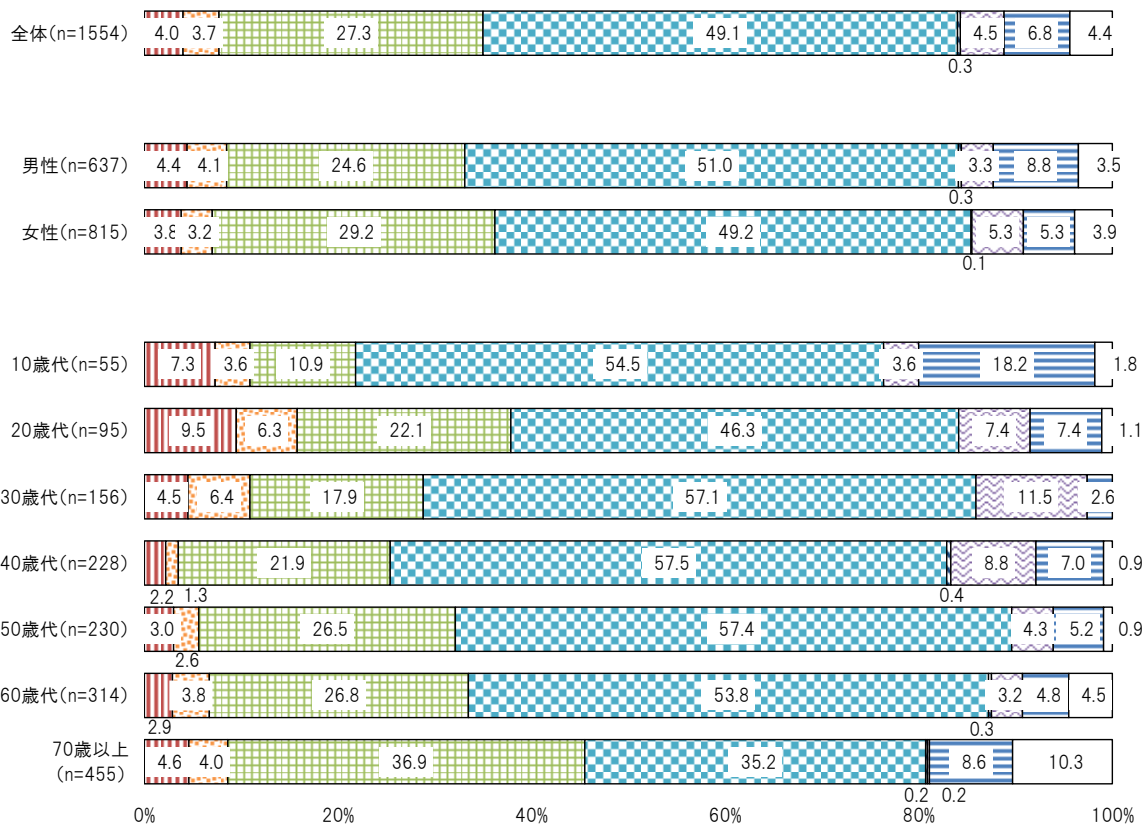
問43 女性が職業を持つことについて、どう思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇は1つだけ)

「子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい」が49.1%で最も高く、ついで「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が27.3%、「わからない」が6.8%となっている。

性別にみると、「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は、男性が24.6%であるのに対し女性は29.2%であり、女性の方が4.6ポイント高くなっている。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目は、70歳以上を除いたいずれの年代も「子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい」であり、70歳以上は「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」となっている。

問43 女性が職業を持つことについてどう思うか



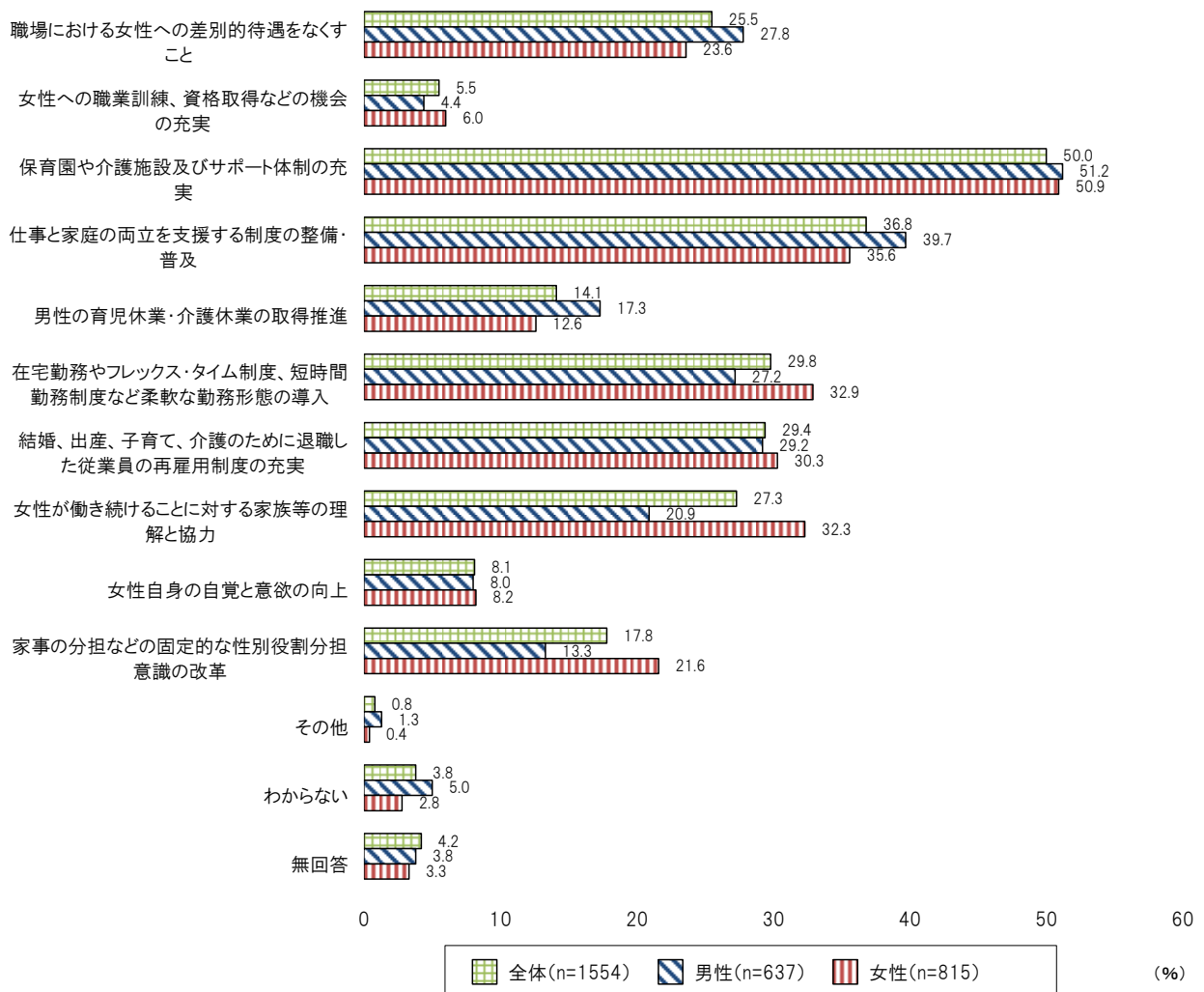
問44 女性が働き続けるためにはどのようなことが特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「保育園や介護施設及びサポート体制の充実」が50.0%で最も高く、ついで「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及」が36.8%、「在宅勤務やフレックス・タイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入」が29.8%となっている。

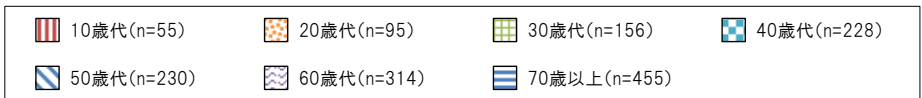
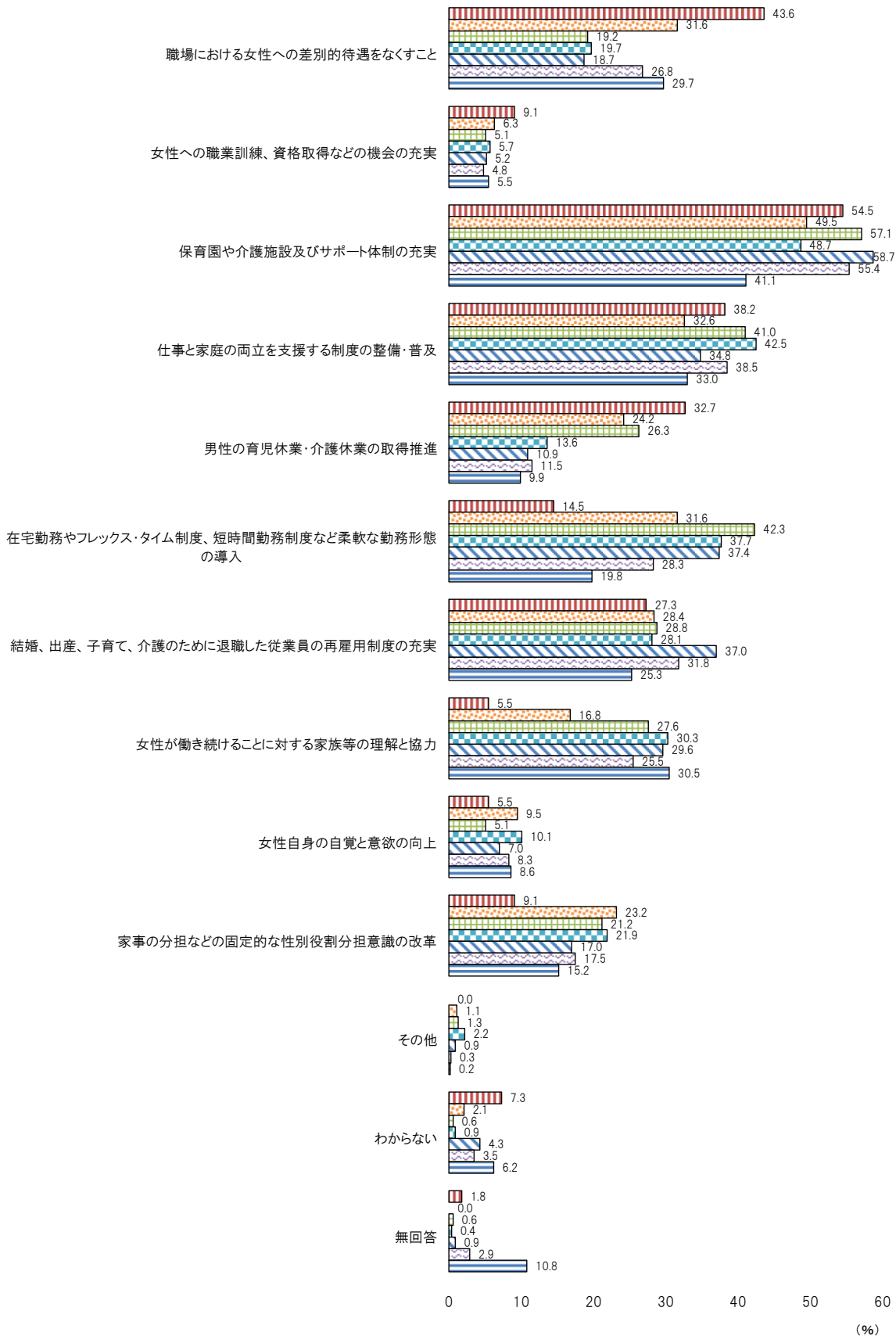
性別にみると、1番目、2番目に割合の高い項目は同じであり、3番目に割合の高い項目は、男性は「結婚、出産、子育て、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実」であり、女性は「在宅勤務やフレックス・タイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入」であった。男女の間で最も差が大きかったのは「女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力」であり、女性の方が11.4ポイント高かった。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目はいずれの年代も「保育園や介護施設及びサポート体制の充実」であり、2番目に割合の高い項目は、20歳代、40歳代、60歳代、70歳以上は「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及」であり、30歳代、50歳代は「在宅勤務やフレックス・タイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入」、10歳代は「職場における女性への差別的待遇をなくすこと」となっている。

問44 女性が働き続けるためにはどのようなことが特に必要か



問44 女性が働き続けるためにはどのようなことが特に必要か



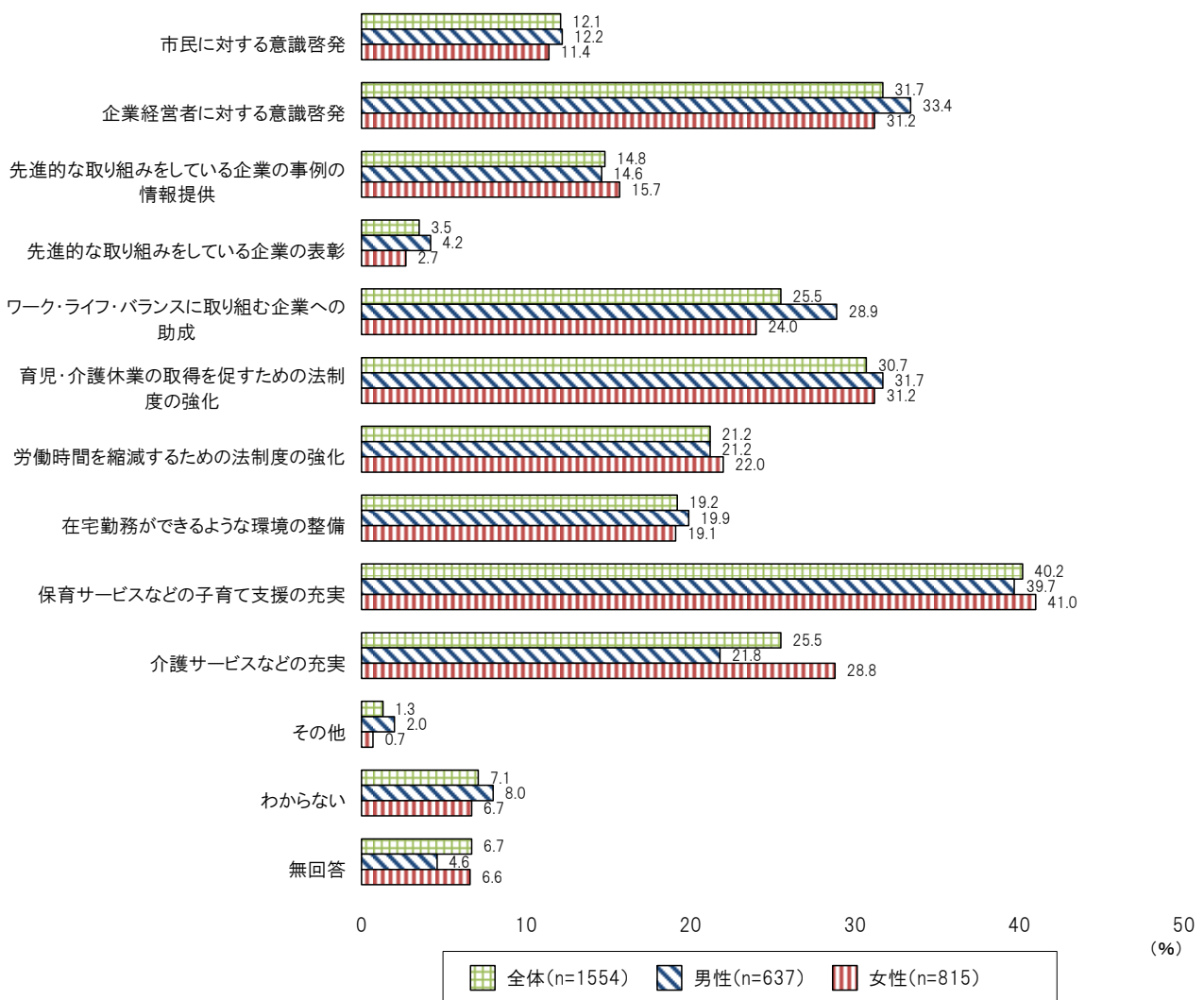
問 45 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「保育サービスなどの子育て支援の充実」が40.2%で最も高く、ついで「企業経営者に対する意識啓発」が31.7%、「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」が30.7%となっている。

性別にみると、1番目、2番目、3番目に割合の高い項目は男女で同じである。男女の間で最も差が大きかったのは「介護サービスなどの充実」であり、女性の方が7.0ポイント高かった。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目はいずれの年代も「保育サービスなどの子育て支援の充実」であり、2番目に割合の高い項目は、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上は「企業経営者に対する意識啓発」であり、10歳代、30歳代は「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」、20歳代は「労働時間を縮減するための法制度の強化」となっている。

問45 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには何が必要か



問45 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには何が必要か

